

ここからはじめる研究入門 医療をこころざすあなたへ

Stuart Porter 著
武田裕子 訳

＜書評者＞ 前野哲博（筑波大学大学院教授・地域医療教育学）

研究は研究者がやるもので、臨床医がやるものではない——学生時代・研修医時代、私はそう思っていた。大学の先生からは、「臨床医だからこそ研究に取り組むべきである」とよく言われていたが、当時はどうしてもそう思えなかった。

そんな私も、後期研修が終わるころ、次第に研究に少し興味を持つようになり、軽い気持ちで研究に取りかかった。実際に取り組んでみると、その奥の深さに驚き、研究とはこんなに大変なものかと愕然とした。ようやく1つの論文を仕上げてみて、やっと臨床医が研究に取り組む意義を実感できたが、もし、こんなに苦勞することを最初から知っていたら、研究をやってみようとは思わなかったかもしれない。思えば、研究のプロ

ダクトである論文はいくらでも読む機会があるが、そのプロセスについて学ぶ機会は少ない。研究の進め方について書かれた本もあるが、研究をライフワークにしている研究者が、同じような道を選ぶうとしている人に向けて書かれたものが多いのではないだろうか。

本書は、まさに昔の私のような、初めて研究に取り組むことになった臨床家を対象に書かれている本である。その特徴は、なんといっても徹底的に初学者の視点に立っていること。なぜ研究するのか、なぜ苦手にしている学生が多いのかというテーマに始まり、指導教員との上手なつきあい方、研究テーマの選定、研究方法の考え方、レビューの書き方、先行研究の探し方……というように、研究のプロセスに沿ってわかりやすく述べ

られている。特に、研究倫理や質的研究については多くのページを割いて、丁寧に説明されている。

本書の特筆すべき点は、研究の入門書であるのに、研究に苦手意識のある人向けに書かれていることである。初学者はどこでつまづくのか、どこで不安に感じるのかを筆者が熟知したうえで、極めて実践的でツボを押さえたノウハウがふんだんに記載されている。ユーモアにあふれた比喩もわかりやすく、こなれた読みやすい訳文と相まって、初学者でも肩肘張らずに読み通すことができるだろう。

医師に限らず（本書の著者は理学療法士である）、臨床にかかわるすべての医療者で、研究に興味を持ったら、まず気軽に手にとってみてほしい。本書はそういう1冊である。

●B6 頁256 2011年
定価2,625円
（本体2,500円＋税5%）
[ISBN978-4-260-01181-5]
医学書院刊